

大人が絵本を 第41回 絵本から生ま



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

どちらの「うさぎ」がお好き？

上野動物園で昨年6月に生まれたジャイアントパンダ「シャンシャン」の成長報告は、痛ましい事件や災害、世界情勢の変動など不穏なニュースの溢れる中で、和みのトピックスとなり、私たちに潤いをもたらしてくれました。シャンシャン効果に乗って、「好きな動物」アンケートなるものが発表されたところによると、1位は「犬」、2位が「猫」の順当な並びに、3位「パンダ」と続きました。日々の報道によって、国民には身近で愛らしい存在になったようです。4位に続く動物は「うさぎ」です¹⁾。犬派、猫派の派閥まで作る国民的アイドルペットの犬も猫も、シャンシャンブームに沸くパンダも置いておき、4.5%と少数ながら4位の「うさぎ」をクローズアップします。

うさぎのお話と聞いて、一番に思い浮かぶ絵本は何でしょうか。ミッフィーの「うさこちゃん」、『ピーターラビット』、幼児からは「めがねうさぎ」のうさこちゃんとの声が聞こえてきそうです。それぞれに愛くるしい人気者のうさぎたちですが、これらのうさぎよりも、きちんとした数字の上で人気を上回っているうさぎがいます。その名は実にシンプルな『しろいうさぎとくろいうさぎ』です。凛々しい顔立ちの真っ黒うさぎが、やさしい表情をした真っ白うさぎの頭に鮮やかな黄色いタンポポの花飾りを挿してい



『しろいうさぎとくろいうさぎ』
ガス・ウィリアムズ 作
松岡享子 訳(福音館書店)



る表紙絵は、まるで一枚の絵画のような芸術性の高いイラストで、額に入れて飾りたくなるほどです。

アメリカ生まれのこの絵本が邦訳発行されたのは、昭和40年、西暦では1965年のことで、50歳を超える長寿絵本です。初版から247万部を発行するミリオンセラーとして、長らくミリオンランキング10位に居続け、今なお、書店店頭で平積み販売されている怪物級の絵本です。しかしながら、2017年のリニューアル版「ミリオンぶっく」で、初めてトップ10から退き、1988年生まれの『いないいないばあ あそび』にその座を譲って、12位に後退しました²⁾。

それでも、「うさこちゃん」シリーズ中ランキングトップの『うさこちゃんとどうぶつえん』(1964年初版、199万部)や『ピーターラビットのおはなし』(1971年初版、158万部)を大きく引き離すほど人気なのです²⁾。

新しい絵本の賞！ 誕生

1965年に日本でデビューし、今日までに247万部もの絵本が各家庭内を跳ね回り、愛され続けてきた『しろいうさぎとくろいうさぎ』が昨年、絵本の賞を受賞しました。厳密には絵本そのものが受賞したのではなく、この絵本を介して、ひとつの家族に生まれたエピソードが賞を獲ったのです。賞のタイトルは、「絵本の日アワード2017 in FUKUOKA エピソード大賞」です。通称「エピソード大賞」とは、私たち「医療法人元気が湧く」が2012年に制定した「絵本の日」が、昨年迎えた5周年を記念して創設した絵本の賞です。

「子どものころ感動した絵本。お子様と一緒に笑い合った絵本。ひとりで涙した絵本。忘れられない思い出の絵本。大切にしている絵本」など、皆さま

手にするときは！

れたもうひとつの物語

企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

にもそれぞれ「一押し絵本」という宝物があるのではないのでしょうか。そんな絵本から生まれた想い出のエピソードを全国から募集して、絵本の魅力と絵本力を確認し、光の当たった作品を表彰していくのが、「エピソード大賞」という新しい賞なのです。

その第1回授賞式が2017年11月26日に、福岡市内で執り行われました。それでは、記念すべき初代「エピソード大賞」大賞受賞作品を紹介します。

絵本の日アワード in FUKUOKA 2017 エピソード大賞作品

我が家には、絵本専用の本棚があります。3人の子供達に、それぞれ買ったり、もらったりして、襖1枚ほどの大きさの本棚が絵本だけで、いっぱいになっています。汚れたり壊れたりした本ほど、思い出が詰まっていて、子供達が大きくなっても捨てることができませんでした。

しかし、1冊だけ巣立って行った本があります。「しろいうさぎとくろいうさぎ」という絵本です。モノトーンに近い色あいと細かく描き込まれた表情が、おだやかで優しいお話を引き立てます。

お話は、いつも仲良しの白い雌ウサギと黒い雄ウサギが、お互いに好きで、ずっと一緒に居たいという気持ちに気づき、森の仲間たちの祝福を受けて結婚するというシンプルなお話ですが、大きくなってからも、ふと本棚の中にこの絵本を見つけ、この本いいお話だったねと口にするような絵本です。

娘が大きくなってからは、いつか仲良しの黒いうさぎが現れ、仲間たちに祝福されて幸せになりますようにと、玄関の絵本用の本棚の正面に飾っていましたが、誰かが、別の本を飾っても、ネコが蹴落したりしても、黙って元の場所に飾ってました。



絵本の日アワード in FUKUOKA 2017 エピソード大賞表彰式

娘も年頃になり、仲良しの黒いうさぎも現れ、交際ののち、結婚することになりました。

すると、黒いうさぎのお友達が、2次会で流す動画の取材をしたいと我が家まで、やって来ました。取材も終わりの方になり、何か、内緒にしていた事とかありませんか？と聞いて来ました。そこで、絵本の事を思い出し、玄関に飾ってある絵本を見せ、いきさつをお話して、動画の上映後に渡して下さいと絵本を託しました。仲間たちの祝福を受けている時に贈られるのが、この絵本に一番ふさわしいと思ったからです。

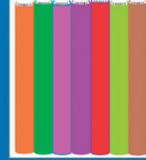
絵本は今、娘夫婦の家の本棚に並んでいます。たまに泊まりに行った時に、可愛い子ウサギ達に同じ思いを込めて読んでいます。

物語と一緒に、思いも伝えられるのが絵本だと思います。



受賞者 熊本県 田邊雅彦 様
作品『しろいうさぎとくろいうさぎ』
ガス・ウイリアムズ 作 松岡享子 訳
福音館書店 1965年発行





もう一度「生きている絵本のおはなし」

大賞作品を何度読んでも胸に詰まるものがこみ上げてきます。一冊の絵本が思い出を紡ぐとは、このようなエピソードを差し、それが絵本の魅力なのです。

一人の男性に願いを託された一冊の絵本は、家族の真ん中でみんなの心を温めたり、気持ちをひとつにしたり、時に本棚でひと休みをして、玄関で家族一人ひとりを見送り、出迎えては、子どもたちの成長を育むとともに、親御さんの成長をも見守ってきたのです。そんな家族の思いや歴史のしみ込んだ絵本が、成長したお嬢様の晴れの門出に次の世代へと託され、新しい家族の真ん中でさらなる新しい物語を紡いでいるのです。

53年も前に出版された絵本を、今、5歳のMちゃんと2歳のSくんが、お母様と一緒に、時にはおじいさまと、そしてまた時にはご家族全員で楽しんでいるようです。247万部も発行されている絵本ですが、田邊家様の『しろいうさぎとくろいうさぎ』は世界にたったひとつしかありません。それは、お嬢様世代に託された絵本が、例え形をなくしたとしても、増刷発行の絵本に買い替えられたとしても変わりはないのです。これが「生きている絵本」です。20～30年後には、MちゃんやSくんの子どもたちに愛されていることでしょう。

色あせずに、新しい物語を紡ぐ絵本

『大草原の小さな家』のイラストで著名なガス・ウィリアムズ氏が、絵と文の両方を手掛けた『しろいうさぎとくろいうさぎ』は、1958年にアメリカで出版された当時、異人種間結婚を連想させるとして論争を呼びました。時代背景として、1963年に国際連合が人種差別撤廃条約を採択し、69年に発効したときです。

作者は、人種差別を取り上げたものではないと否

定していますが、当時の重い社会背景を重ねると、この作品に様々な深みを感じることができます。

日本で翻訳出版された1965年は、戦後20年の節目に当たる年で、翻訳を手がけたのは、アメリカで児童図書館員として専門的なトレーニングを受け、64年以降その後の児童図書の先駆的働きを担って来られた松岡享子氏です³⁾。原題は『The Rabbit's Wedding』なのですが、松岡氏は結末のわかる「うさぎのけっこん」とはしませんでした。「翻訳者として一番大きく関わったことはタイトルで一生懸命願うことの大切さは色あせることはありません」と、初版発行から実に50年後の「月刊MOE」2015年11月号で述べています⁴⁾。

静かに読み継がれて初版発行から36年がたった2001年は、発行部数208万部でランキング8位、2008年には232万部で5位となったうさぎのお話です。52年の間、読み継がれているうちに、247万部を記録して、247万通り、いえいえその何倍ものエピソードがそこかしこに存在するということです。

世界にひとつだけのエピソード

「絵本の日アワード2017 in FUKUOKA エピソード大賞」に入選した他の作品もご紹介しましょう。特別賞は、『The Giving Tree』(Shel Silverstein)によるエピソードを応募された奥田美和子様(イタリア在住)です。子育て中のご自身を「大きな木」に重ね合わせていたなか、お子様2人を1人で抱えながら始まった闘病生活で、「命」と「子ども」という無二の存在をかみしめ、そして子どもたちが成長したときに、本書に支えられることを願った作品で、館長賞に当たる「さっちゃん賞」に輝きました。

アメリカで1964年に出版され、その後30以上の言語に翻訳された世界規模のロングセラーです。日本では、1976年に本田謹一郎氏による邦訳『おおきな木』が発行され、「大人の絵本」としてたちまちベストセラー、ロングセラーとなりました。しかし、

出版社である篠崎書林が倒産したことで、しばらく絶版となっただけでしたが、その後、著作権があすなる書房に渡り、世界的に著名な村上春樹氏の翻訳による新訳『おおきな木』が出版された2010年には、本田訳版 vs 村上訳版の論争を起こすほど話題沸騰となった絵本です。



『おおきな木』
村上春樹 訳
(あすなる書房)

『The Giving Tree』
by Shel Silverstein
(Harper Collins)



エピソード大賞さっちゃん賞受賞作品は、原書で読まれているところに、大きな意味があると思います。本田訳や村上訳による他者の解釈が挟まれずに、読者である奥田様独自の感性とニュアンスで読み取られて、深められ、内在化されていった経緯から生まれた世界に一冊の『The Giving Tree』 story なのです。

一冊の絵本に受ける感じ方や同一化の度合いは、個々人の実体験と、身体的・心理的な要素によって異なりますし、心に焼き付いて離れない物語や、人生の支えになってくれる一冊というものも人生体験で異にします。それが、世界にたったひとつのエピソードとなるのです。



2018年エピソード大賞受賞者は、貴殿！

エピソード大賞佳作に選ばれたのは2作品です。元気が湧く賞は、5歳と2歳のお子様を子育て中の柴田香様(福岡県)が、ご自身のお子時代に『たぬきのちょうちん』(金の星社)を介して生まれたおばあさまとのエピソードを、社会人になっても支えにされてきたという、本当に元気の湧くエピソードです。

笑顔賞は、赤ちゃん絵本『かんかんかん』(福音館書店)による中島里佳様(福岡県)で、3歳児と10か月児のお子様とのエピソードを母親の立場で披露

しながら、病に舐まれていくご自身のお母様のことを子どもの立場で重ね合わせたエピソードも紹介した作品です。

今回は、残念ながら入選とならなかった作品も、いずれも心にしみるエピソードばかりで、各家庭に宝物となる絵本が多様にちりばめられていることを実感しました。それは、「絵本力」の深奥に触れられた体験で、その力は無限であることも再確認できました。

個人家庭でなくとも、エピソードは生まれます。歯科診療と子どもたちの間に、どんな絵本による物語をお持ちでしょうか。小さなエピソードでも、受ける人物によって感動の大小は異なります。今年の「絵本の日アワード2018 エピソード大賞」は、皆様方の小児歯科医院から生まれたエピソードかもしれません。

募集要項の詳細は当館ホームページに掲載しています⁵⁾。たくさんのご応募をお待ち申し上げます。



文献

- 1) 可愛い動物と言えば…人気ナンバーワンは、41.0%で〇だった！, ディーアンドエム, 2017/9/20 HP <http://prtmes.jp/>
- 2) 株式会社トーハン: ミリオンぶっく2017年版, トーハン, 東京, 2017.
- 3) 高橋久子: 一九六〇年の絵本 (Inはじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ), ミネルヴァ書房, 京都, 2002, pp.147-164.
- 4) 松岡享子: 作者たちの言葉で読み解く あの絵本の輝きの秘密『しろいうさぎとくろいうさぎ』, 月刊MOE, 37(11), p.30, 2015.
- 5) 医療法人元気が湧く 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ HP <http://www.bibliokids.jp>

絵本

- 1) ガース・ウィリアムズ 作, 松岡享子 訳: しろいうさぎとくろいうさぎ, 福音館書店, 東京, 1965.
- 2) Shel Silverstein: The Giving Tree, Harper Collins, New York, 1964.
- 3) シェル・シルヴァスタイン 作, 村上春樹 訳: おおきな木, あすなる書房, 東京, 2010.
- 4) 浜田廣介 文, いもとようこ 絵: たぬきのちょうちん, 金の星社, 東京, 2005.
- 5) のむら さやか 文, 塩田正幸 写真: かんかんかん, 福音館書店, 東京, 2007.